

-2024年度開始-

中頭病院 臨床研修プログラム概要



社会医療法人敬愛会 中頭病院

社会医療法人 敬愛会 中頭病院 臨床研修プログラム

社会医療法人 敬愛会 概要

昭和 55 年 10 月に法人を設立。

沖縄市を中心とした中部診療圏(人口約 50 万)における急性期医療を担う中核病院として位置付け、昭和 57 年 4 月に開院。(100 床、内科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科)

平成 14 年 11 月、病院の隣地に「ちばなクリニック」を開院。一般外来のほとんどを移転し、病院は、入院医療、特殊・紹介外来、画像診断センターなどの検査、救急医療に特化した。

医療機能の充実強化を図り安らぎとゆとりのある療養環境を整えていきたいと考え平成 28 年 10 月には、旧病院の場所から約 900 メートル離れた現在の場所へ移転。地下 1 階、地上 5 階建て、3 つのコンセプトを掲げて医療に取り組んでいきたいと思ひます。

1. 高度急性期医療の提供 2. 集学的癌治療の構築 3. 救急医療の充実

また、地域の登録医を始めとする医療機関との連携を強めて、共同ケースカンファランスを定期的に開催、各種講演会及び勉強会を主催し、地域医療の臨床教育に寄与している。

全ての診療に標準以上のレベルを維持し、在院日数 9～10 日、患者に負担をかけない医療を目指している。

効率的な医療運営をめざし、専任のリスクマネージャーを配置して医療事故の防止、インフォームドコンセントの充実に力を注いでいる。

敬愛会 理念

・ 良質な医療を地域に提供

「医療人は、その道の専門家として地域の方々の健康を守る社会的使命を担っている」

・ ホスピタリティ精神に徹する

「いたわる心、はぐくむ気持ち、謙虚な気持ちで病院を訪れる方々に対応する姿勢」

・ 経営基盤の安定化

「最高に医療を提供するにも、内容に充実したサービスを提供するにも経営基盤の安定化なくしては不可能である」

・ 職場は学びと創造の場

「私達が社会人として練られ、成長する場が病院である」

社会医療法人 敬愛会 中頭病院

名称	社会医療法人敬愛会 中頭病院
所在地	〒904-2195 沖縄県沖縄市登川 610 番地 TEL : 098-939-1300 FAX : 098-937-8699
経営主体	社会医療法人敬愛会
法人開設	昭和 55 年 10 月
開 院	昭和 57 年 4 月
理事長	宮里 善次
院 長	下地 勉
副院長	與那覇俊美、新里敬、伊志嶺朝彦、座波久光、砂川宏樹
病院種別	一般（病院）
病床数	一般病床 355 床（内、ICU12 床、HCU16 床）

【診療科目】

1. 内科	2. 循環器内科	3. 消化器内科
4. 呼吸器内科	5. 感染症内科	6. 血液腫瘍内科
7. 内分泌・代謝内科（糖尿病）	8. 腎臓内科（人工透析）	9. 神経内科
10. 外科	11. 消化器外科	12. 肛門外科
13. 呼吸器外科	14. 乳腺外科	15. 心臓血管外科
16. 脳神経外科	17. 整形外科	18. 形成外科
19. 産婦人科	20. 小児科	21. 小児外科
22. 泌尿器科	23. 眼科	24. 耳鼻いんこう科・頭頸部外科
25. 麻酔科	26. 病理診断科	27. 放射線科
28. 救急科	29. リハビリテーション科	30. 血管外科
31. 皮膚科	32. 集中治療科	

中頭病院 群星沖縄・RyuMIC プログラム概要

プログラム責任者名：新里 敬

研修プログラムの特色

当院の研修プログラムは、群星沖縄（明日の臨床家を育成するために多数の市中臨床研修病院が連携）と RyuMIC（琉球大学病院と他の臨床研修病院が連携）の両グループと強く連携しながら、魅力的な研修が可能です。

救急や外来診療を含めた基本的な診療能力を身につけることを主体に、研修医と指導医と一緒に研修内容の改善を図っていきけるような、研修医主体のプログラムとなっています。

内科研修では、週 2 コマ（半日）外来診察を担当する。

- 標準的な医療の実践
- Common Disease 中心の救急・プライマリーケア研修の実践
- 他病院との連携をもとにした研修医による自由選択（数ヶ月）
- 米国との医学医療交流

臨床研修の目標の概要

医師としての人格を養い、医学・医療を取り巻く社会的ニーズを理解し、将来の専門性に関わらず、日常診療で頻繁に出くわす病気・病態に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけること。

何事も患者の立場に立ち考える習慣を身につけ、患者の持っている権利を理解し守る姿勢を身につけること。

一般的な急性・慢性疾患を多く経験することによって、患者の健康上の問題を全人的に、また家族、地域社会の一員として把握でき、さらに一般市民の健康保持とその増進および疾病・障害の早期発見とそれらの予防の役割を担える医師となること。

【研修全体として】

- ・院内感染・性感染症などを含む感染対策・予防医療については、外来担当時に、予防医療・予防接種について学ぶ。また、入職オリエンテーション講義、年 2 回開催される感染対策講演会に参加する。
- ・社会復帰支援については、ケースワーカー動向し学んでいく。
- ・緩和ケアについては、チームに同行し終末期医療および医療者としての患者・家族への対応を学ぶ。
- ・CPC については、毎月 1 回開催される CPC に参加。研修医は解剖に立ち会った症例は、指導医の指導のもと臨床発表も担当する。
- ・アドバンス・ケア・プランニング（ACP）については、内科や外科を研修中にチームの一員として意思決定支援の場に同席し参加する。
- ・虐待への対応については、入職オリエンテーション時の講義やチームに同行した際に患者、家族への対応を学ぶ。

臨床研修を行う分野

診療科目	病院又は施設の名称	研修期間
内科	中頭病院	28 週
救急部門	中頭病院	12 週

	地域医療		ちばなクリニック、恩納クリニック、公立久米島病院、愛聖クリニック、沖縄県立八重山病院、沖縄県立宮古病院、ファミリークリニックきたなかぐすく、名嘉村クリニック、徳山クリニック、クリニックぎのわん、稲福内科医院、沖永良部徳洲会病院、西平医院、とうま内科、豊見城中央病院、おもろまちメディカルセンター、 すながわ内科クリニック	4 週
	外科		中頭病院	12 週
	麻酔科		中頭病院	4 週
	小児科		中頭病院	4 週
	産婦人科		中頭病院	4 週
	精神科		沖縄中央病院、県立精和病院、平和病院、新垣病院、平安病院、琉球病院、南山病院	4 週
	選択研修	上記診療科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
		泌尿器科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
		整形外科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
		脳神経外科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
		耳鼻咽喉科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
		放射線科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
		病理科診断科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週

	眼科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	心臓血管外科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	形成外科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	乳腺外科	中頭病院、群星沖縄参加病院・施設、 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	皮膚科	群星沖縄参加病院・施設、 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	緩和ケア	群星沖縄参加病院・施設 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	リハビリテーション科	群星沖縄参加病院・施設 中頭病院協力病院・施設	4 週～12 週
	保健・医療行政	沖縄県中部保健所	4 週
備考： 選択研修は、下記の協力病院、協力施設にて研修することも可能。 1 分野 4 週の単位で選択を行い、4 週より最大 12 週まで研修する事ができる。 【協力病院】〈18 病院〉 琉球大学病院、友愛医療センター、浦添総合病院、沖縄協同病院、南部徳洲会病院、中部徳洲会病院、大浜第一病院、ハートライフ病院、新垣病院、平和病院、沖縄中央病院、琉球病院、平安病院、沖縄県立精和病院、沖縄病院、同仁病院、豊見城中央病院、南山病院 【協力施設】(19 施設) 若松病院、ファミリークリニックきたなかぐすく、名嘉村クリニック、とうま内科、徳山クリニック、統合医療センタークリニックぎのわん、西平医院、ちばなクリニック、沖縄県中部保健所、恩納クリニック、おもろまちメディカルセンター、公立久米島病院、沖縄県立八重山病院、沖縄県立宮古病院、愛聖クリニック、隠岐島前病院、稲福内科医院、沖永良部徳洲会病院、すながわ内科クリニック			

臨床研修の概要

【募集要項】

1、募集人数（プログラム）	中頭病院 群星沖縄・RyuMIC プログラム 12 名
2、応募資格	医師臨床研修マッチングプログラム参加者 医師国家試験合格者見込み者 見学及び実習者
3、応募提出書類（4 点）	①履歴書
	②成績証明書
	③卒業見込み証明書
	④健康診断書
4、選考方法	○応募書類・面接にて決定
5、研修期間	2 年間
6、研修医・処遇	
○雇 用	常勤医師
○勤務時間	8 時 30 分～17 時 30 分（休憩 60 分）※時間外勤務有
○給 与 （基本給・固定残業代含む）	1 年次 300,000 円 2 年次 340,000 円
○賞 与	無し
○その他手当	当直手当（当院規定による）、当直回数 4～7 回 / 月
○休 暇	年次有給休暇（1 年次：10 日、2 年次：11 日） フローティング休暇（3 日）、指定休 病欠休暇（5 日）
○研修医宿舍	なし（家賃補助：2 万円）
○研修医室	無し
○各種保険	公的医療保険（社保・年金）雇用保険・労災保険
○賠償保険	研修医にて医師賠償保険加入（必須）
○健康管理	年 2 回の職員健康診断 ワクチン接種：インフルエンザ、HB ワクチン
○学会参加 参加費用の支給	年 1 回 ※ 発表の場合は、その限りではない 有り
院外の就業制限	研修プログラムに定めている病院以外で診療に従事して はならない 病院外の業務に就業してはならない （アルバイト診療の禁止）

研修スケジュール（プログラム例）

【中頭病院 群星沖縄・RyuMIC プログラム】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科 4.4 週	内科 4.2 週	内科 4.4 週	内科 4.6 週	内科 4.2 週	内科 4.4 週	外科 4.4 週	外科 4.2 週	外科 4.6 週	救急科 4.2 週	救急科 4 週	小児科 4.4 週
	救急センター											
2 年次	麻酔科 4.4 週	産婦 人科 4.2 週	精神科 4.4 週	地域 医療 4.6 週	内科 4.2 週	救急科 4.4 週	選択 研修(※) 4.4 週	選択 研修(※) 4.2 週	選択 研修(※) 4.6 週	選択 研修(※) 4.2 週	選択 研修(※) 4 週	選択 研修 (※) 4.4 週
	救急センター											

(※) 選択研修は、当院及び協力病院・施設にて研修可。

【協力病院・18 病院】

琉球大学病院、友愛医療センター、浦添総合病院、沖縄協同病院、中部徳洲会病院、
南部徳洲会病院、大浜第一病院、ハートライフ病院、国立病院機構沖縄病院、同仁病院
平和病院、新垣病院、沖縄中央病院、平安病院、国立病院機構琉球病院、沖縄県立精和病院
豊見城中央病院、南山病院

【協力施設・19 施設】

北中城若松病院、ファミリークリニックきたなかぐすく、名嘉村クリニック、とうま内科、徳山クリニック、
統合医療センタークリニックぎのわん、西平医院、ちばなクリニック、
沖縄県中部保健所、恩納クリニック、おもろまちメディカルセンター、公立久米島病院、沖縄県立宮古病院、
沖縄県立八重山病院、愛聖クリニック、隠岐島前病院、稲福内科医院、沖永良部徳州会病院、**すながわ内科クリ
ニック**

中頭病院特色

- ① 沖縄県中部診療圏(人口約 50 万)における急性期医療を担う中核病院
- ② 救急専門医による 1 次から 3 次(一部)までの救急医療
- ③ 豊富な Common disease の症例数
- ④ 地域の登録医を始めとする医療機関との連携(地域支援型病院)
- ⑤ 完全な電子カルテによる効率化された情報管理体制
- ⑥ 専任リスクマネージャーによる、安全管理体制

研修指導体制

- ・ ロータイトする診療科に研修実施責任者をおき、当該診療科の指導医が実質的責任を持って指導にあたる。
- ・ ロータイトする診療科に所属する医師および、当該診療科での診療に関係する医療従事者が側面的に支援する体制をとる。

研修の記録及び評価方法

- ・ 指導医は担当する診療科での研修目標の到達状況を把握し、評価する。
- ・ 各診療科の研修実施責任者は、指導医からの評価を集約し、当該診療科での目標達成状況を把握し、研修管理委員会へ報告する。
- ・ プログラム責任者は、研修医の目標達成状況を適宜把握し、研修医が修了時までに到達目標を達成できるように調整するとともに、研修管理委員会に総括的な研修目標の達成状況を報告する。
- ・ 各研修プログラムの内容に即した研修医手帳を作成し、各研修医に研修内容を記入させ、病歴や手術の要約を作成させるとともに、研修目標の達成度を自己判断する。
- ・ 研修管理委員会は、プログラム責任者の報告にもとづき、研修医の研修目標の到達状況を評価する。
- ・ 病院長は、研修管理委員会が行う研修医の評価の結果を受けて、研修修了証を交付する。また評価の結果、研修医が臨床研修を修了していると認められないときは、当該研修医に対して、その理由を付して、その旨を文書で通知する。

研修管理委員会：研修管理委員会を設置し、次に掲げる事項を行う。

- ・ 研修プログラム作成方針の決定、各研修プログラム間の相互調整等、研修プログラムの全体的な管理をおこなう。
- ・ 研修医の募集、他施設への出向、研修継続の可否、処遇、健康管理等、研修医の全体的な管理をおこなう。
- ・ 研修項目の達成状況の評価、研修終了時及び中断時の評価等、研修医の研修状況の総合的評価を行う。
- ・ 見学面談時における研修希望者の評価を行う。
- ・ 研修後及び中断後の進路について、相談等の支援を行う。

当院での研修医受入れの考え方

- ・ 1 名の研修医について複数の上級医・指導医が指導にあたります。
- ・ 研修医も“中頭病院の職員”として、当院の方針、理念を遵守してもらいます。
- ・ 研修医一人ひとりの意欲、希望を尊重し、充実した研修環境を提供します。

臨床研修の到達目標(一般目標・行動目標)

1. 初期臨床研修における一般目標

- 医師としての人格を養い、医学・医療を取り巻く社会的ニーズを理解し、将来の専門性に関わらず、日常診療で頻繁に出くわす病気・病態に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につける。
- 何事も患者の立場に立ち考える習慣を身につけ、患者の持っている権利を理解し守る姿勢を身につける。
- 一般的な急性・慢性疾患を多く経験することによって、患者の健康上の問題を全人的に、また家族、地域社会の一員として把握でき、さらに一般市民の健康保持とその増進および疾病・障害の早期発見とそれらの予防の役割を担える医師を涵養する。
- 社会的使命と公衆衛生への寄与、利他的な態度、人間性の尊重、自らを高める姿勢という4つの基本的価値観（プロフェッショナリズム）を身につけること。

2. 初期臨床研修における行動目標 【医療人として必要な基本姿勢・態度】

(1) 患者－医師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- ① 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- ② 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。
- ③ 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

(2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他の

メンバーと協調するために、

- ① 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- ② 上級医及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- ③ 同僚及び後輩への教育的配慮ができる。
- ④ 患者の転入・転出に当り、情報を交換できる。
- ⑤ 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。

(3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける

ために、

- ① 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBM=Evidence Based Medicine の実践ができる）。
- ② 自己評価及び、第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。
- ④ 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。

(4) 安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、

- ① 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実践できる。
- ② 医療事故の防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
- ③ 院内感染対策（Standard Precautions を含む）を理解し、実施できる。

（５）症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- ① 症例呈示と討論ができる。
- ② 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。

（６）医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- ① 保健医療法規・制度の重要性を理解し、適切に行動できる。
- ② 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
- ③ 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
- ④ 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。

経験すべき症候 -29 症候-

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便秘異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

経験すべき疾病・病態 -26 疾病・病態-

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。
脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

※上記 29 症候および 26 疾病・病態は 2 年間の研修期間中に全て経験し、オンライン評価システム EPOC II にて管理する。病歴要約については日所業務で作成する退院時サマリー等を確認する。

研修カリキュラム

内科研修カリキュラム (24 週間)

G I O / S B O 前述、臨床研修の到達目標とする。

【循環器内科】

主な指導医/上級医	屋宜 宣守（福岡大学 卒） 指導医講習会受講済
	石盛 博（藤田保健衛生大学 卒） 指導医講習会受講済

研修医は、一般患者と循環器疾患患者の診療にあたりますが、循環器グループの一員として、また、指導スタッフとマンツーマンで指導を受けながら、外来患者、救急患者、入院患者の担当医となります。

担当医として診療にあたりますが、全て指導スタッフの指導を受けると共に、循環器グループ全体の指導の下に、患者を診療する体制で行われます。

最初に行うことは日常診療で遭遇する心電図異常、見逃してはいけない心電図変化の見方、解釈について基礎的知識の習得を行います。

次に、上級医・指導医とともに急性心筋梗塞及び、その合併症等、緊急を要する疾患への対応について学び必要であればペースメーカー、スワングアンツカテーテルの挿入及び、管理を行い、診断治療に必要な知識、技術の習得をめざします。

病棟では上級医・指導医と共に、入院患者の担当医となり、循環器に必要な知識ばかりではなく内科全般の知識の習得をめざします。

1 年目では、特に循環器疾患の病歴把握、基本診療、末梢血管の身体所見や心音の聴診を学びます。

『研修カリキュラム』

1. 基本手技
 - ①末梢静脈確保、中心静脈確保、Swan-Ganz 挿入助手
 - ②体外ペースメーカー挿入助手
 - ③肺蘇生術 (D. C shock) ※院内 Call 対応
2. 検査・読影
 - ①ECG (ドック ECG、30 例以上／週、読影)
 - ②Check X-R 肺部 CT、MRI
 - ③Holter ECG、トレッド・ミル テスト助手
 - ④末梢動脈 (API) 検査
 - ⑤心臓カテーテル検査助手
 - ⑥電気生理検査助手
3. 治療
 - ①循環器疾患治療 (循環器薬の理解)
 - ②除細動助手
- ③ PCI 助手

{ 夜間緊急あり }

【消化器内科】

主な指導医/上級医	座覇 修 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済
	知念 隆之 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済

当院は地域の中核病院として機能しており患者数も多く、上部・下部内視鏡検査症例は県内でも有数であり、その他 ERCP (EST)、超音波内視鏡検査、内視鏡的胃瘻造設術等の特殊検査および、内視鏡的治療も施行しています。

初期の消化器研修では、急性胃腸炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍等の消化性潰瘍、肝疾患（急性及び慢性肝炎、肝硬変）等の診断および、治療法を中心に研修し、消化器の救急疾患として多い上部・下部消化管出血、急性腹症等の鑑別診断及び治療法を適宜学んでいきます。

消化器内科は検査手技が多く、初期の研修では NG チューブの挿入、腹腔穿刺（腹水の鑑別診断）等をまずマスターし、基本的な腹部エコーの手技、上部消化管内視鏡検査挿入法等を学びます。

また、基本的な画像検査として上部消化管造影、注腸造影、腹部エコー、腹部 CT 等があり、これらの読影法を、症例を通して適宜学んでいきます。豊富な症例の下、日々新しい技術の修得に努めながら診療にあたっています。

『研修カリキュラム』

1. 理学的所見 ①腹部所見の取り方
2. 画像診断 ①腹部単純 X 線の読影
 ②腹部エコーの読影
 ③胃透視、注腸透視の読影
 ④腹部 CT の読影
3. 手技 ①NG チューブの挿入
 ②腹腔穿刺
 ③腹部エコーの基本技術の修得
4. 診断と治療 ①急性胃腸炎、消化性潰瘍の診断と治療
 ②急性腹症の鑑別診断と治療

【内分泌・代謝内科(糖尿病)】

(主な指導医/上級医)	屋良 朝博 (琉球大学 卒)
	渡辺 蔵人 (琉球大学 卒)

新卒後研修として生活習慣病としての糖尿病を中心に学びます。すなわち、急性期合併症としての糖尿病性ケトアシドーシス、慢性合併症としての精神障害、網膜症、腎症などの診断と治療の習得を目指します。病棟では入院患者を上級医・指導医とともに担当し、月に 1 回行われる糖尿病教育入院の患者を通じて、基本的な検査の見方、インスリンの使用方法について学んでいきます。また、術前症例や血糖コントロールに難渋して

いる患者も他科とともに担当します。

様々な病態を持つ糖尿病患者に対して看護師、管理栄養士、薬剤師を中心としたコメディカルとともにチームで治療にあたることを目標としています。

そのため、医師の学会発表にのみならず、コメディカルに対しても学会発表の指導を行い、また、CDE（糖尿病療養指導士）の育成養成にも力を入れています。

1年目は、内科の基本的診断、治療法を習得するとともに、内分泌代謝領域の基本的知識、救急疾患へ適切に対応できる知識を習得します。その他、グループ回診、抄読会、症例検討会、他院との研究会にも積極的に症例を提示しディスカッションを重ねています

『研修カリキュラム』

1. 糖尿病患者の病歴、理学所見の取り方と記載法の習得
2. 内分泌代謝疾患の救急の診断と治療の習得（糖尿病性昏睡、甲状腺クリーゼ、副腎不全）
3. 糖尿病に関する検査の実施と理解（尿一般、尿中Cペプチド、腎機能、神経学的検査、眼底検査）
4. 糖尿病の治療法の理解（食事療法、運動療法、薬物療法、インスリン導入の適応と方法）
5. 甲状腺疾患の診断と治療法の理解

【呼吸器内科】

主な指導医／上級医	玉城 和則 （東北大学 卒）
	下地 勉 （琉球大学 卒） 指導医講習会受講済
	伊志嶺 朝彦（琉球大学 卒） 指導医講習会受講済 プログラム責任者講習会済

複数の指導医のもと日常診療で頻繁に遭遇する疾患（呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など）の診断、治療を中心に研修を行います。

その中で胸部X線、胸部CTの読影、血液ガスの見方、喀痰のグラム染色とその解釈などについて基礎的知識の習得をめざします。

病棟では上級医・指導医とともに入院患者の担当医となり、回診を通して診断治療に必要な知識、技術そして患者さんへの接し方を学びます。なお、呼吸器疾患の救急診療は外来、病棟を問わず常時研修できるように配慮します。

「より迅速に、そして丁寧に」を基本姿勢にして患者の診察治療にあたり、総回診、症例検討会、CPC、院外研究会への参加、学会活動も積極的におこなっており、常に最新の知識、技術の修得に努めます。

『研修カリキュラム』

1. 問診の取り方
2. 理学的所見 ①内科基本的診察に準ずるが、打診、呼吸音の聴診を更に詳しく学ぶ
3. 検査所見 ①喀痰検査（グラム染色、好酸菌染色の施行と理解）
 ②胸部単純X線の読影
 ③胸部CTの読影

- ④血液ガスの解釈
- ⑤肺機能検査の理解
- 4. 診断・治療
 - ①市中肺炎の鑑別判定とその治療
 - ②院内肺炎の鑑別診断とその治療
 - ③喘息の病態の理解とその治療(特に吸入療法)
 - ④COPD の病態の理解とその治療
 - ⑤肺癌の治療法（緩和ケアを含む）の理解と実践
 - ⑥在宅酸素療法の適応と実践
 - ⑦肺結核の胸部 X 線読影と治療法の理解
- 5. 基本手技
 - ①内科基本手技に準ずる
 - ②気道確保（マスク換気、気管内挿管）
 - ③胸水穿刺の助手
 - ④気管支ファイバー検査の観察
- 6. その他
 - ① 在宅治療患者の往診、診察

【腎臓内科】

主な指導医/上級医	金城 一志 （山口大学 卒）指導医講習会受講済
	上原 正樹 （琉球大学 卒）指導医講習会受講済

各種腎疾患の病態の理解、合併症への対応、全身管理等について学び、病態生理の把握から診断、治療までを系統立てて習得します。具体的には、腎炎・ネフローゼ、急性及び、慢性腎不全の管理・合併症治療などに当たります。その中で検査の選択・解釈、検査・治療のための手技とその適応について学んでいきます。

また、血液浄化法の原理とその手技・適応を習得し、チーム医療の遂行に努め、食事療法、薬物療法、生活指導、他科よりのコンサルテーションについて指導医のもとで習得します。

『研修カリキュラム』

- 1. 病歴、基本的診察 他科に準ずる。
- 2. 検査 検査の選択、検査所見の理解。腎生検
- 3. 手技 IVH 挿入・ダブルルーメンカテーテルの挿入の介助、実施、腎生検の介助
- 4. 目標 上記教育方針と目標に準ずる。特に、腎炎・ネフローゼ、腎不全の管理・合併症治療などにあたる。

【感染症・総合内科】

主な指導医/上級医	新里 敬 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済 プログラム責任者講習会済
	大城 雄亮 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済 プログラム責任者講習会済

将来進む専門科に関わらずすべての医師に必要とされるプライマリケア能力の土台を構築するために、医療面接や身体診察を重視した研修を行う。患者家族・医療者関係、医療者間関係を良好に保つことに心がけ、チーム医療に必要なコミュニケーション能力、症例呈示能力、臨床推論能力、後輩や学生に対する指導能力を身につける。

『研修カリキュラム』

1. 一般目標

医療面接、基本的診察手技、ベッドサイド教育、EBMを重視し、臓器や系統にこだわらない全人的診療のできる医師を目指し、研修を行います。

内科医として必須の基本的知識と技能を習得し、①適確な鑑別診断、②救急の場面を含めてありふれた疾患 (common diseases) を扱える能力、③患者や家族の心理・社会的側面への配慮、④予防医学に関する最新の知識と実践、を中心に研修を行います。

2. 行動目標

(1) 基本的な態度、医師患者関係の構築、診断の思考過程、生物心理社会モデルを理解していること。

(2) 病歴と身体所見を的確にとることができる。

(3) 頻度の高い症候について病態生理と鑑別診断について述べるができる。

(4) 頻度の高い疾患の治療を適切に行うことができる。

(5) 内科救急疾患についての診断と初期治療を適切に行うことができる。

(6) 静脈・動脈採血、心電図、血液培養、腰椎穿刺、骨髄穿刺、胸腔・腹腔穿刺などの基本的手技を習得し、その結果について適切な解釈ができる。

(7) Evidence based medicine (EBM) の基本を習得する。

(8) 医療安全についての配慮と実践ができる。

(9) commonな感染症の診断と適切な抗菌薬の選択ができる。

- (10) 臨床倫理に基づいた診療を行うことができる。
- (11) 予防医学的側面から患者や医療従事者に対する教育を行うことができる。
- (12) 患者の心理状況を把握し、適切にインフォームド・コンセントを行うことができる。
- (13) 他の専門医もしくは上級医に適切にコンサルテーションができる。
- (14) チーム医療において中心的な役割を担うことができる。
- (15) 地域医療機関や保健福祉施設との地域連携に適切に関わることができる
- (16) 介護保険、保険診療について十分な知識を習得し、適切な保険診療を行うことができる

【集中治療科】

主な指導医／上級医	笹野 幹雄（琉球大学 卒）指導医講習会受講済 プログラム責任者講習会受講済
-----------	--

集中治療医学は生命を脅かす急性の臓器不全に対応することを特徴とする医療です。あらゆる臓器不全に対応しなければならず、内科系・外科系を問わず、分野横断的な知識と技量が求められます。また、急性期の蘇生、診断、治療にとどまらず、臓器保護、栄養管理、リハビリテーション、合併症への対応と予防、終末期医療など広い視野を持った診療が必要となります。

研修医は毎日数名の患者を受け持ち、毎朝行われる多職種回診で症例のプレゼンテーションを行い、重症患者管理に関し自ら考え判断できる医師としての素養を育みます。また、指導医によるベッドサイドティーチングやレクチャーを通して、集中治療医学の基礎知識と基本的手技の習得を目指します。

研修期間中にジャーナルクラブやセミナーを担当し、一つのテーマについて深く掘り下げて学習する機会を設けます。効果的なスライド作成やプレゼンテーション方法の指導も行います。

『研修カリキュラム』

1. 病歴聴取
 - 1) ICU 入室時カルテを適切に記載することができる
2. 理学的所見
 - 1) 一般的な身体診察に加え、重症患者特有の身体診察について理解する
 - 2) モニターやグラフィックを利用したフィジカルアセスメントができる
3. 基本手技

- 1) 中心静脈ラインがエコーガイド下で安全に挿入できる
- 2) 動脈ラインが安全に挿入できる
- 3) 気管挿管前の評価及び準備が適切にできる
- 4) 気管挿管（直視下・ビデオ喉頭鏡）ができる
- 5) 胸水、腹水のドレナージが安全に実施できる

4. 検査

- 1) 血液ガス分析の結果を適切に解釈できる
- 2) ベッドサイドで超音波による心臓、肺・胸腔、腹部の基本的なアセスメントができる

5. 診断・治療

下記の病態の診断および治療を経験し、その概略を理解する

- 心停止後症候群
- 敗血症性ショック
- アナフィラキシーショック
- 循環血液量減少性ショック
- てんかん重積
- 脳卒中(SAH・脳出血・脳梗塞)
- 重症呼吸不全(肺炎・ARDS 等)
- 閉塞性換気障害
- 心不全
- 急性冠症候群
- 不整脈
- 急性腎傷害
- 電解質異常
- 腹部コンパートメント症候群
- DKA・HHS
- 術後管理(脳・心臓・肺・消化器)
- ICU 患者の発熱(感染性合併症及び非感染性合併症の鑑別)

外科研修カリキュラム (12 週間)

【外科】

主な指導医/上級医	與那覇 俊美 (琉球大学 卒)
	大田 守雄 (福岡大学 卒) 指導医講習会受講済
	砂川 宏樹 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済
	卸川 智文 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済

研修 1 年目の外科は、12 週間であるが、病棟に配属され、指導医師とともに術前術後の管理、手術や検査の助手、カンファレンスでの症例提示を主に行う。これらを通じ、一般外科診療に必要な、基本的知識・技能・態度を身につけながら、外科診療でのチーム医療の重要性を認識、実践する。初期 12 週間は、カルテの記載、採血や筋肉、静脈注射などの基本的手技の取得と、外科疾患の診療の進め方を、病棟を中心に修得する。

■ 外科初期臨床研修到達目標

一般目標 (GIO)

1. 医療に必要な、基本的知識・技能・態度を身につける。
2. チーム医療において、他の医療メンバーと協調・協力する習慣を身につける。
3. 患者およびその家族と、より良い人間関係を確立しようと努める態度を身につける。
4. 臨床を通じて、思考力・判断力および創造力を養う態度を身につける。

行動目標 (SBO)

I. 診察

1. 患者の受診動機、受療行動を尋ね、記述・説明ができる。
2. 問診を適切に行うことができる。
3. 全身の診療（視診、聴診、触診、打診）が要領よくできる。

II. 検査

1. 胸腹部単純エックス線撮影の適応を説明でき、指示および読影ができる。
2. 各種造影法の適応を説明でき、指示できる。
3. 超音波検査、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査等の適応を説明でき、指示ができる。
4. 各種内視鏡検査の適応を説明でき、指示することができる。
5. 体腔穿刺の適応を説明できる。
6. 動脈血採血が実施できる。
7. 細胞・病理学的検査法の意義と適応を説明でき、体表およびリンパ節の生検法を説明できる。

III. 診断

1. 血気胸、イレウスの分類を説明でき、その診断ができる。
2. 急性腹膜炎の聴打触診を行い、筋性防御の所見をとることができる。

3. 消化管出血の種類と病態を説明でき、バイタルサインをチェックできる。

IV. 滅菌・消毒法・手術

1. 手術や創傷の治療など、無菌的処置の際に用いる器具や諸材料の滅菌法を述べるができる。
2. 滅菌手術着や手袋を正しく着用（ガウンテクニック一般）ができ、手指の消毒を正しく行うことができる。
3. 手術の術前処置、消毒を正しく行うことができる。
4. 手術に参加し、術者や助手の手助けができる。
5. 輸血一般について、正しく理解し、実施できる。血液型の判定を行うことができ、交差適合試験の意義を理解し実施できる。
6. 不適合輸血について理解し、その回避法・対策を指示することができる。
7. 局所麻酔法および局所麻酔薬の種類を説明でき、副作用、合併症を診断し、その対策を述べることができる。

V. 術後処置・救急対処法

1. 手術後の患者のバイタルサイン（意識・血圧・脈拍・呼吸・体温）を正しく診断、測定でき、病態に応じた処置を行うことができる。
2. 手術後の患者の創傷処置を正しく行うことができる。
3. 患者の病歴収集を行うことができる。
4. 心停止を正しく診断できる。
5. 蘇生法を具体的に述べることができ、人工呼吸と心マッサージ(閉胸式)を実施できる。
6. 気管切開の適応と方法を説明でき、術者の助手を行うことができる。
7. 除細動の適応を説明でき、実施することができる。
8. 蘇生に関する薬剤について説明できる。
9. 中心静脈圧の意義を説明でき測定できる。
10. 各種止血法を説明でき、体表におけるものについては実施できる。

VI. 一般臨床

1. 切開・排膿・ドレナージ・縫合法について説明する。
2. 包帯法を理解し、実施できる。
3. 各種注射を適切に実施できる。

症例検討会での症例発表を適切に行うことができる。

■ 経験すべき事項（自らが患者の診療・鑑別診断を行い、初期治療に参加すべきこと）

➤ 診察法・検査・手技

（ア） 身体診察法の修得

問診、全身の診察（視診、聴診、触診、打診）。

リンパ節、腹部腫瘤、各種腫瘤の触知、肝脾腫の触知、ヘルニア門の触知、直腸指診、腸雑音の聴取、外傷による創を観察し、各種出血、神経・筋損傷、骨折、脱臼、捻挫の鑑別

(イ) 各種検査の意義と適応の理解、結果の判読

胸腹部単純エックス線、上部、下部消化管造影、胆道、血管造影検査

超音波検査、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査、上部、下部内視鏡検査

(ア) 症状、病態、疾患

1. 頻度の高い症状、病態

胸痛、腹痛、排便障害、摂食障害、乳汁分泌、下肢冷感、間歇的跛行、嘔声、気胸、イレウス

2. 緊急を要する症状・病態

黄疸、吐血、下血、呼吸困難、消化管穿孔、急性腹膜炎、消化管出血、ショック、血気胸、動脈性出血、静脈性出血、神経損傷、筋損傷、筋膜損傷、骨折、脱臼、捻挫、停止、呼吸停止

3. 経験が求められる疾患・病態

気腫性嚢胞（ブラ、ブレブ）、無気肺、良性肺腫瘍、肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、癌性髄膜炎

良性乳腺腫瘍、乳癌

逆流性食道炎、食道癌、食道静脈瘤、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、胃癌、胃肉腫、良性胃腫瘍、十二指腸乳頭腫瘍、ダンピング症候群

腸重責、虫垂炎、大腸憩室症、炎症性腸疾患、小腸腫瘍、大腸腺腫、大腸ポリープ、原発性肝癌、転移性肝腫瘍、門脈圧亢進症、胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋症、胆管炎、胆嚢癌、胆管癌、急性膵炎、膵癌

(イ) 特定の医療現場

1. 手術室、救急室

手術や創傷の治療など、無菌的処置、滅菌手術着や手袋を正しい着用（ガウンテクニック一般）手指の消毒、手術の術前処置、消毒、手術の術前処置、消毒、手術参加と術者や助手の手助け

2. 集中治療室

手術後の患者のバイタルサイン（意識・血圧・脈拍・呼吸・体温）の正しい判断、測定、病態に応じた処置人工呼吸と心マッサージ（閉胸式）、気管切開の術者の助手、除細動の実施、蘇生に関する薬剤の使用、中心静脈圧の測定。動脈血採血、胸腔ドレーン、レスピレーター の装着と調節

■ 研修スケジュール

1. 上部・下部消化器外科、肝胆膵、胸部、乳腺、血管外科の5つのグループのうち、いずれかに配属される。
2. 病棟業務、手術、検査の助手、カンファレンスの準備、当直業務を中心に行い、外来診療は原則として行わない。

3. 治療手技、検査はカリキュラムに応じて施行する。

主なカンファレンス週間スケジュールは以下のごとくである。

曜日	外科カンファ	午 前	午 後
月	7:45 術前カンファレンス	手術	手術
火	7:45 抄読会	手術	手術
水	7:45 レントゲンカンファレンス 18:00 術前カンファレンス(翌週OPE分)	手術	手術
木	7:45 消化器内科外科合同カンファレンス (ビデオカンファレンスと交互)	手術	手術
金	7:45 総回診	手術	手術
土			

小児科研修カリキュラム (4 週間)

G I O / S B O 前述、臨床研修の到達目標とする。

【小児科】

主な指導医/上級医	砂川 信 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済
	比嘉 利恵子 (琉球大学 卒) 指導医講習会受講済

中頭病院小児科は 1982 年の開院以来、中部地区の地域中核病院として三次医療機関の県立病院及び、琉球大学医学部と連携し、主に二次患者の入院治療と一般小児科のプライマリケアを担っています。

対象患者が胎児～14 歳と範囲が広いため、小児科は複数の指導医で対応します。

小児科で他科と著しく異なるポイント〔対応の仕方、投薬量、輸液量、カロリー、処置など〕がありますが、外来・入院を通してそのポイントを学びます。

感染症などの小児疾患全般の診断と治療を中心に研修を行います。新生児においては一般新生児の管理と病的新生児の診断と治療および、帝王切開時の処置なども研修します。

外来では診断に至る経過を学び、時間外の夜間外来においては小児の救急〔喘息発作、熱性痙攣など〕及び、その対応を研修します。又、指導医と共にちばなクリニックにて見学・診療を行なう事もあります。

病棟では、上級医・指導医とともに担当医となり、回診を通して検査データの解釈や治療及び、母親への対応の仕方を学びます。

又、週 1 回の総回診では、問題ケースのプレゼンテーションを行う。

『研修カリキュラム』

1. 面接・指導

《一般目標》

小児ごとに乳幼児への接触、親（保護者）から診断に必要な情報を的確に聴取する方法及び、指導法を身につける。

《行動目標》

- ・乳幼児は元来、診療に非協力的であることを踏まえ、それを受容した上で適切な診察ができる。
- ・母親（家族）が何を求めて受診してきているのか、その受診動機、受診行動を理解・共感した態度で診療に臨める。
- ・親（保護者）から、発病の状況、症状、患児の生育歴、既往歴、家族歴、予防接種などを要領よく聴取できる。
- ・親（保護者）に対して、指導医とともに適切な病状を説明し、療養の指導ができる。

2. 診察

《一般目標》

小児に必要な症状と所見を正しく捉え、理解するための基本的知識を習得し、緊急処置に対処できる能力を身につける。

《行動目標》

- ・小児の正常な身体発育、精神発達を理解し判断できる
- ・小児の年齢差による特徴を理解できる。
- ・視診により全身状態を判断し、発疹、呼吸困難、チアノーゼ、脱水症の有無を確認できる。
- ・乳幼児の咽頭の視診ができる。
- ・発疹のある患者では、発疹の所見を述べることができ、日常遭遇することのある疾患（麻疹、風疹、水痘、川崎病、突発性発疹症、猩紅熱など）の鑑別を説明できる。
- ・下痢患児では、便の性状（粘膜、血液、膿など）を説明できる。
- ・嘔吐や腹痛のある患児では重大な腹部所見を説明できる。
- ・咳をする患児では、咳の出かたと呼吸困難の有無を説明できる。
- ・痙攣や意識障害のある患児では、髄膜刺激症状を調べることができる。

3. 手技

《一般目標》

小児ごとに乳幼児の検査及び、治療の基本的な知識と手技を身につける。

《行動目標》

- ・単独または、指導者の下で採血、ライン確保ができる。
- ・皮下注射ができる。
- ・指導者の下で、新生児、乳幼児の筋肉注射、静脈注射ができる。
- ・指導者の下で、輸血ができる。
- ・指導者の下で、導尿ができる
- ・浣腸ができる。
- ・指導者の下で、胃洗浄ができる。
- ・指導者の下で、腰椎穿刺ができる。

4. 薬物療法

《一般目標》

小児に用いる薬剤の知識と薬用量の使用法を身につける。

《行動目標》

- ・小児の年齢区分の薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生物質を含む）を処方できる。
- ・乳幼児に対する薬剤の服用、使用について、看護師に指示し、親（保護者）を指導できる。
- ・年齢、疾患等に応じて補液の種類、量を定めることができる。

5. 小児の救急

《一般目標》

小児に多い救急疾患の基本的知識と手技を身につける

《行動目標》

- ・ 喘息発作の応急処置ができる。
- ・ 脱水症の応急処置ができる。
- ・ 痙攣の応急処置ができる。
- ・ 腸重積症を判断し、指導者の下で整復ができる。
- ・ 酸素療法ができる。
- ・ マスクバッグ換気、胸骨圧迫式マッサージなどの蘇生術が行える。
- ・ 血液ガス分析ができる。
- ・ 指導医の下で、適切な鎮静・睡眠剤を使用できる。

産婦人科研修カリキュラム (4 週間)

G I O / S B O 前述、臨床研修の到達目標とする。

【産婦人科】

主な指導医/上級医	諸見里 秀彦（熊本大学 卒）指導医講習会受講済
	島袋 美奈子（琉球大学 卒）指導医講習会受講済
	城間 肇（帝京大学 卒）

指導医の下、以下について研修します。

① 女性特有の疾患による救急医療を研修する。

研修目標の一つに、「緊急を有する病気を持つ患者の初期診療に関する臨床的能力を身につける」とあり、女性特有の疾患による緊急医療を研修する必要がある。

この中には、子宮外妊娠、流産、卵巣嚢腫捻転といった、生命の危機に瀕する可能性のある女性特有の疾患が含まれており、これらを適確に鑑別し、初期治療を行える。

② 女性特有のプライマリーケアを研修する。

思春期、成熟期、更年期の生理的、肉体的、精神的変化は女性特有のものである。

女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解するとともに、それらの失調に起因する諸々の疾患に対する系統的診断と治療を研修する。また、これら女性特有の疾患を有する患者を全人的に理解し対応する態度を学ぶ。

③ 妊産褥婦の医療に必要な基本的知識を研修する。

妊娠分娩と産褥期の管理に必要な知識と共に、母性保護、生殖医療のあり方を学ぶ。特に、妊産褥婦に対する投薬の問題、治療や検査をする上での制約等についての特殊性を理解する。

1. 産科の臨床 ① 生殖生理学の基本を理解すること

- ・ 母体の生理
- ・ 胎児の分化、発育の生理
- ・ 胎盤の生理
- ・ 羊水の生理
- ・ 分娩の生理

- ・ 産褥の生理
- ② 正常妊娠、分娩、産褥の管理
- ③ 異常妊娠、分娩、産褥の管理
リスクの程度を判定し、いかなる症例についても、少なくともプライマリケアは行い得ること)
- ④ 妊・産・褥婦の薬物療法（母児双方の安全性を考慮した薬物療法を行い得ること）
- ⑤ 産科検査
少なくとも各検査法の原理と適応を理解し、またそのデータにより適切な臨床的判断をなしえること）
 - ・ 妊娠の診断法
 - ・ 超音波検査法
 - ・ 羊水検査法
 - ・ 胎児、胎盤機能検査法
 - ・ 分娩監視装置による検査法
 - ・ X線検査法
 - ・ その他
- ⑥ 産科手術の修得（特に以下について独立して行い得ること）
 - ・ 子宮内容除去術
 - ・ 吸引分娩法
 - ・ 帝王切開術
- ⑦ 産科麻酔と全身管理
（麻酔指導医の下で必要な麻酔全般にわたる修練を受けることが望ましい）
 - ・ 麻酔法の種類と適応を理解する
 - ・ 全身管理を行い得ること

2. 婦人科の臨床

- ① 婦人の解剖・生理学を理解する
 - ・ 腹部、骨盤、泌尿生殖器、乳房の解剖学
 - ・ 泌尿生殖器の発生学
 - ・ 性機能系の生理学
- ② 婦人科疾患の取り扱い
 - ・ 感染症（性病を含む）の診断、治療を行い得ること
 - ・ 腫瘍：良性腫瘍（エンドメトリオーシスを含む）については、診断、治療を行い得ること。悪性腫瘍については、少なくとも早期診断、病理、治療についての一般的知識を有すること。
 - ・ 内分泌異常（発育、性分化異常を含む）について、一般治療に必要な知識と経験を有すること。
 - ・ 不妊症について、一般治療に必要な知識と経験を有すること。
 - ・ 性器の垂脱について、診断、治療を行い得ること
 - ・ 婦人科心身症（更年期障害を含む）について、検査、診断、治療を行い得ること。
 - ・ 乳房疾患について、乳房検診を行い得ること。
 - ・ その他の一般治療に必要な疾患診断、治療を行い得ること。
- ③ 婦人科疾患の全身管理を行い得ること
 - ・ 救急時の全身管理を行い得ること。
 - ・ 輸液・輸血を行い得ること。
 - ・ 薬物療法を行い得ること。
- ④ 婦人科手術 その1
 - ・ 術前、術後の全身管理を行い得ること。
 - ・ 手術のリスクを評価し得ること。

- ・ 術後合併症の診断と処置ができること
- ⑤ 婦人科手術 その2
 - ・ 主治医として以下の手術を執刀できること
 - 子宮内要除去術
 - 付属器摘出術
 - 単純子宮全摘出術（腹式、膣式）
 - 子宮脱に対する根治手術
 - ・ 悪性腫瘍の根治手術の助手を務めた経験のあること
- 3. 産婦人科の内分泌学
 - ① 性機能系に関するホルモンの種類、生理作用、作用機序、代謝等を理解すること
 - ② 内分泌検査法の原理と適応を理解し、結果の判定が可能なこと
 - ・ 基礎体温測定法
 - ・ 頸管粘液検査法
 - ・ 膣内容塗抹検査法
 - ・ 各種ホルモン測定法
 - ・ 各種ホルモン負荷試験
 - ③ ホルモン療法の種類と原理を理解し、その経験を有すること
 - ④ 排卵誘発法、排卵抑制法
 - ・ 子宮出血止血法、子宮出血誘発法
 - ・ 黄体機能不全治療法
 - ・ 乳汁分泌抑制法（高プロラクチン血症治療法）
 - ・ 更年期障害治療法
 - ・ 月経随伴症状治療法
 - ⑤ 産科内分泌
 - ・ 胎盤ホルモンの種類、生理作用、作用機序、妊娠経過による変化などを理解すること
 - ・ 胎児胎盤系におけるステロイドホルモン産生の機序と臨床的意義を理解すること
 - ⑥ 子宮収縮（分娩）に関するホルモン（オキシトシン、プロスタグランディンなど）の基礎知識を有し、それを臨床に用いられること
 - ・ 乳汁分泌の機序を理解すること

救急科研修カリキュラム (12 週間)

G I O / S B O 前述、臨床研修の到達目標とする。

【救急科】

主な指導医/上級医	間山 泰晃 （山形大学 卒）指導医講習会受講済 プログラム責任者講習会受講済
	仲村 尚司 （高知大学 卒）指導医講習会受講済

救急専従医指導を行います。救急搬送された全ての患者に対応し、各種救急疾患の診断・初期治療を学び、多発外傷、広範囲熱傷、中毒など、各科のローテーションでは経験し得ない傷病を、指導医とともに、積極的に担当医として治療、ICU 管理に参画して、急性期の病態・集中治療を学びます。

新入院患者へのプレゼンテーション、入院患者の総回診は毎日行い、治療方針を検討します。

外傷に関しては、将来的に一人で適切な初期診療が行えるよう、外傷初期診療ガイドラインに準拠

した指導を行います。

また、実施可能な場合には、地域の消防署にて救急車同乗研修を行う。あくまでも見学者として同乗し、救急救命士が何を行っているかを体験し、また消防隊員との相互理解を深めることを目的とする。

麻酔科研修カリキュラム (4週間)

G I O / S B O 前述、臨床研修の到達目標とする。

【麻酔科】

主な指導医/上級医	上川 務恵 (佐賀医科大学 卒) 指導医講習会受講済
	花城 亜子 (東京医科歯科大学 卒) 指導医講習会受講済
	高橋 和成 (産業医科大学 卒)

麻酔指導医の下で手術患者の麻酔を担当することにより、心肺蘇生術の際に必要な気道確保、気管内挿管の手技を取得する。その他、人工呼吸器、循環系作動薬の使い方、輸液・輸血療法、中心静脈を含む静脈路確保の手技等について学んで頂きます。

地域医療研修カリキュラム (4週間)

G I O / S B O 前述、臨床研修の到達目標とする。

【地域医療】

患者さん営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療(在宅医療を含む)について理解し、実践するという考え方に基づく。

この期間、地域における家庭医療の実践を目指します。患者のライフスタイル、ライフサイクル、家庭の背景にも配慮し、質の高い医療を継続的に提供していくことを目標としています。外来においてコモンディジースを中心に診療を行います。また、在宅診療、生活習慣病の予防、健康管理に関わって行きます。

【地域医療 研修協力施設】

- ・ちばなクリニック、恩納クリニック、愛聖クリニック、公立久米島病院、
- ・沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院、ファミリークリニックきたなかぐすく、名嘉村クリニック
- ・徳山クリニック、クリニックぎのわん、稲福内科医院、**すながわ内科クリニック** など

精神科研修カリキュラム (4 週間)

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、下記の役割について研修します。

- 1) 精神症状の捉え方の基本を身につける。
- 2) 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
- 3) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

【精神科 研修協力施設】

沖縄中央病院、県立精和病院、平和病院、新垣病院、平安病院、琉球病院、南山病院 など

診療科の主な研修内容（選択科目）

整形外科

主な指導医/上級医	赤嶺 良幸（琉球大学 卒） 指導医講習会受講済
	石原 昌人（琉球大学 卒）

外科、救急診療を中心に、指導医のもとで診察手技、骨、軟部組織の画像の見方、適切な処置、治療法（保存治療、手術治療の必要性、緊急性の有無 等）の基本的知識の習得を目的とします。又、指導医と共にちばなクリニックにて外来診療・見学を行なう事もあります。

泌尿器科

主な指導医/上級医	新里 博（琉球大学 卒）
	大山 朝弘（京都府立医科大学 卒）

指導医のもとでカンファレンス、回診、外来診療、手術などを通して泌尿器科診療の基本的概念が習得できるように研修を行います。

診断に関しては前立腺触診などを含めた泌尿器科領域の基本的診察法について経験するとともに、超音波検査、尿路造影検査及び、内視鏡検査などについて学びます。

処置については、尿道カテーテル操作及び、基本的なカテーテルトラブルに対処できる能力を身につけ、また、泌尿器科領域の救急疾患（尿路外傷、結石による疼痛、尿閉など）に対する初期対応ができるようにします。

手術では実際に助手として参加して手術手技の基本について学ぶとともに、術前術後管理について研修します。病棟では入院患者を受け持ち、指導医とともに処置、治療、患者および、家族との面接法などについて研修を行います。又、指導医と共にちばなクリニックにて外来診療・見学を行なう事もあります。

耳鼻咽喉科

主な指導医/上級医	古謝 静男（東北大学 卒） 指導医講習会受講済
	糸数 哲郎（岐阜大学 卒）
	田中 克典（琉球大学 卒）

患者は、小児から高齢者に至るまで幅広く、聴覚、音声言語、嚥下といった日常生活で重要な働きを行う器官が治療の対象となります。

耳、鼻、咽頭など耳鏡やファイバーなどの機器を使用し、外から見える部位が多く、視診が診断、治療の上で重要になります。

対象疾患も、頭頸部腫瘍や慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎等のような外科的治療が必要な疾患と、めまい、顔面神経麻痺、感音性難聴等のような神経内科に近い疾患があります。又、指導医と共にちばなクリニックにて外来診療・見学を行なう事もあります。

- 研修の目標：
- ・耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡による耳、鼻、咽喉頭の所見のとりかた。
 - ・ファイバーによる咽頭、喉頭の診察。聴力検査の原理と結果の判定。
 - ・めまい患者に対する検査の進め方と平衡機能検査結果の判定。
 - ・耳、鼻のレントゲン写真の読影、頭頸部領域のCTの読影。
 - ・頭頸部悪性腫瘍に対する診断、検査の進め方。
 - ・手術患者の術前、術後管理について。

眼 科

主な指導医/上級医	富山 浩志（琉球大学 卒）
-----------	---------------

当科においては、まず視力、眼圧、視野と基本的な検査法を会得してもらいます。その後、実際に細隙燈顕微鏡を使った前眼部の所見の取り方、また眼底鏡を使った眼底所見の取り方を学びます。外来においてしばしば遭遇する、角膜・結膜炎、ぶどう膜炎、白内障、網膜症等の基本的疾患についての知識を理解するように講義します。

又、指導医と共にちばなクリニックにて外来診療・見学を行なう事もあります。

病理科

主な指導医/上級医	松本 裕文（杏林大学 卒）指導医講習会受講済
	仲田 典広（北里大学 卒）指導医講習会受講済

臨床医が日常診療上必要な、基本的な病理診断学的な知識の習得を目標とします。

具体的には、日常診療上遭遇する機会の多い疾患を中心に、鏡検し、所見を採り、診断します。機会があれば、迅速診断、病理解剖などの介助などを行います。CPCにおける解剖所見の発表が最終目標です。病理専門医は上記事項を全面的に支援します。

放射線科

主な指導医/上級医	諸見里 秀和（京都大学 卒）指導医講習会受講済
-----------	-------------------------

胸腹部単純写真、CT・MRI画像の読影に必要な基礎知識の習得をはかるとともに、その適応、限界を理解できるようにします。特に急性期疾患にとっては、診断だけではなく必要となる処置に関し

でも理解できるよう研修します。

脳神経外科

主な指導医/上級医	竹重 暢之（久留米大学 卒）
-----------	----------------

神経所見の診かた、脳神経の画像の読影方法、ICUでの全身管理方法などを習得して頂きます。その後、脳卒中における治療法、頭部外傷における治療法、脳腫瘍における治療法などを学んでもらい手術技術の習得へと研修を進めて行きます。

心臓血管外科

主な指導医/上級医	本田 二郎（日本医科大学 卒）
-----------	-----------------

心臓血管外科の手術対象となる疾患、すなわち虚血性心疾患、心臓弁膜症、大動脈疾患、成人先天性心疾患の診断から手術に至る過程を理解してもらいます。当科術後の全身管理を経験することにより、救急医療、外科系内科系を含めた集中治療の基本を習得してもらいます。実際の手術は第2、あるいは第1助手として参加し外科の基本を学んでももらいます。

形成外科

主な指導医/上級医	山本 勇矢（獨協医科大学 卒）
-----------	-----------------

当科では、体表に関するあらゆる変形、損傷への基本的な知識の習得を目標とします。外傷、熱傷、顔面骨骨折などの診療の仕方や治療について、褥瘡などの難治性潰瘍の考え方について、また先天異常などの変形への治療法について学びます。また、形成外科的な縫合法、手術手技の基本について研修します。

乳腺科

主な指導医/上級医	座波 久光（琉球大学 卒）指導医講習会受講済
	阿部 典恵（名古屋大学 卒）

乳腺科は乳がんを中心とした主に単一の疾患を扱う科ですが、その診療内容は、外科治療という領域にとどまらず、画像診断、術前術後の薬物治療（化学療法、内分泌療法や分子標的治療薬）、切除や再建までの含めた手術（オンコプラスディックサージェリー）、病理診断、放射線治療、緩和

ケアなど極めて幅広い領域の知識と技術を必要とします。

さらに、癌の告知、乳房切除に伴うボディイメージの変化、化学療法に伴う副作用、遺伝性腫瘍に関するカウンセリングなど、看護師や薬剤師をはじめとした他職種からなるチームと協力して患者の身体的、精神的ケアを行なうことが重要な役割です。乳腺科の研修では、総合的に乳腺疾患に関わる領域のチーム医療が実践できることを目的とします。

保健・医療行政

地域保健を必要とする患者とその家族に対して、保健所・介護老人保健施設等の地域保健の現場において下記の役割について研修します。

- 1) 保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む。）について理解し、実践する。
- 2) 介護老人保健施設等の役割について理解し、実践する。

【地域・保健医療 研修協力施設】

沖縄県中部保健所など

緩和ケア研修

悪性腫瘍をはじめとする生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族のQOLの向上のために、緩和ケアを実践し、さらに同分野の教育や臨床研究を行うことができる能力を身につける。悪性腫瘍終末期における様々な身体的・心理・社会的・スピリチュアルな苦痛を持つ患者に対して、全人的立場からQOLを向上するための医学技術・コミュニケーションスキルを習得する。また、医療者として家族への配慮の必要性を認識する。非がん患者、慢性疼痛患者に対する様々な苦痛緩和についても学ぶ。

【研修協力施設】

豊見城中央病院など

主なカンファレンス・勉強会・教育回診 スケジュール

	月	火	水	木	金	土
7:45～						指導医レクチャー
8:00～	外科術前 カンファ	外科抄読会	外科・放射線科 合同カンファレンス	外科・消化器内科 合同カンファレンス	外科総合カンファ	消化器内科 抄読会
					内科症例検討会	
8:30～	救急 カンファレンス	救急 カンファレンス	救急 カンファレンス	救急 カンファレンス	救急 カンファレンス	救急 カンファレンス
10:30～	群星沖縄センター 長教育回診（第2）		群星沖縄センター長 教育回診（第3）			
13:00～		小児症例 カンファレンス	ランチョン カンファレンス		研修医会（1） ランチョン カンファレンス	
15:00～	感染症内科 カンファレンス	感染症内科 カンファレンス	感染症内科 カンファレンス	感染症内科 カンファレンス	感染症内科 カンファレンス	
16:00～			産婦人科 カンファレンス			
16:30～					呼吸器内科 カンファレンス	
17:00～			外科術前 カンファレンス		救急医・看護師 症例検討会	
17:30～		臨床・病理解剖 症例検討会				
不定期	超音波ワークショップ、気道緊急ワークショップ					

中頭病院 臨床研修管理委員会 (令和 5 年 4 月現在)

研修管理委員長	新里 敬 (中頭病院 副院長)	研修管理委員長 中頭病院 群星沖縄・RyuMIC プログラム責任者
研修管理委員 (常任委員)	大城 雄亮 (中頭病院 感染症内科医長)	研修管理委員・内科研修実施責任者
	笹野 幹雄 (中頭病院 集中治療科部長)	研修管理委員・内科・集中治療科指導医
	下地 勉 (中頭病院 院長)	研修管理委員・内科指導医
	伊志嶺 朝彦 (中頭病院 副院長)	研修管理委員・内科指導医
	諸見里 秀和 (中頭病院 副院長)	研修管理委員・放射線科研修実施責任者
	大田 守雄 (中頭病院 呼吸器外科部長)	研修管理委員・外科研修実施責任者
	當山 鉄男 (中頭病院 消化器外科部長)	研修管理委員・外科指導医
	砂川 宏樹 (中頭病院 消化器一般外科主任部長)	研修管理委員・外科指導医
	卸川 智文 (中頭病院 外科医長)	研修管理委員・外科指導医
	間山 泰晃 (中頭病院 救急科部長)	副研修管理委員長・救急研修実施責任者 中頭病院 群星沖縄・RyuMIC 副プログラム責任者
	仲村 尚司 (中頭病院 救急科医長)	研修管理委員・救急科指導医
	砂川 信 (中頭病院 小児科部長)	研修管理委員・小児科研修実施責任者
	宮城 俊雅 (中頭病院 小児科医師)	研修管理委員・小児科指導医
	上川 務恵 (中頭病院 麻酔科部長)	研修管理委員・麻酔科研修実施責任者
	高橋 和成 (中頭病院 麻酔科医長)	研修管理委員・麻酔科指導医
	諸見里 秀彦 (中頭病院 産婦人科部長)	研修管理委員・産婦人科研修実施責任者
	新里 博 (中頭病院 泌尿器科部長)	研修管理委員・泌尿器科研修実施責任者
	大西 弘重 (中頭病院 泌尿器科医長)	研修管理委員・泌尿器科指導医
	赤嶺 良幸 (中頭病院 整形外科部長)	研修管理委員・整形外科研修実施責任者
	松本 裕文 (中頭病院 病理科部長)	研修管理委員・病理研修実施責任者
	金城 正樹 (中頭病院 臨床検査科長)	研修管理委員
	安座間 照子 (中頭病院 薬剤科長)	研修管理委員
	仲宗根 ゆかり (中頭病院 看護部長)	研修管理委員
	大城 学 (中頭病院 事務部長)	研修管理委員
	鈴木 あろう (中頭病院 事務課長)	研修管理委員
	伊波 愛 (中頭病院 事務主任)	研修管理委員
	大城 真弓 (中頭病院 事務)	研修管理委員
	照屋 鈴乃 (中頭病院 事務)	研修管理委員
研修管理委員 (客員委員)	比嘉 栄治 (コロニーワークショップ所長)	研修管理委員 (外部委員)
	垣花 学 (琉球大学病院/大学院担当教授)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	仲間 直崇 (中部徳洲会病院 医長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	嘉数 真教 (友愛医療センター 部長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	藏下 要 (浦添総合病院 副院長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	今村 恵 (南部徳洲会病院 医長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	高原 安彦 (沖縄協同病院 副院長/総合診療部部長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	岡田 祥一 (大浜第一病院 研修委員長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	普天間 光彦 (ハートライフ病院副院長/呼吸器内科部長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	佐藤 香代子 (新垣病院 研修委員長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	宮城 則孝 (平和病院 副院長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	高良 聖治 (沖縄中央病院 副院長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	平安 良雄 (平安病院 法人統括院長/臨床研修センター長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	山川 宗一郎 (沖縄県立精和病院 精神科部長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	大湾 勤子 (沖縄病院 院長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	比嘉 清志郎 (同仁病院 整形外科医長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	福治 康秀 (琉球病院 院長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)
	比嘉 盛文 (豊見城中央病院 副院長)	研修実施責任者・指導医 (中頭病院協力病院)

研修管理委員
(客員委員)

涌波 淳子(北中城若松病院 理事長)
山入端 浩之(ファミリークリニックきたなかぐすく院長)
名嘉村 博(名嘉村クリニック 院長)
當間 茂樹(とうま内科 院長)
徳山 清之(徳山クリニック 院長)
天願 勇(クリニックぎのわん 院長)
西平 守樹(西平医院 院長)
石原 淳(ちばなクリニック 副院長)
国吉 秀樹(沖縄県中部保健所 所長)
玉城 徳光(恩納クリニック 理事長)
久保田 徹(おもろまちメディカルセンター副院長/内科部長)
和氣 亨(沖縄県立八重山病院 院長)
本永 英治(沖縄県立宮古病院 医師)
並木 宏文(公立久米島病院 管理者兼病院長)
中田 安彦(愛聖クリニック 院長)
黒谷 一志(隠岐島前病院 院長)
稲福 徹也(稲福内科医院 院長)
玉榮 剛(沖永良部徳洲会病院 病院長)
譜久原 弘(南山病院 理事長・院長)
砂川 博司(すながわ内科クリニック 院長)

研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)
研修実施責任者・指導医(中頭病院協力施設)

常任委員会： 研修管理委員長、病院長、各プログラム管理責任者、当院研修プログラム必修分野研修実施責任者、研修実施者をもって構成する。

客員委員： 中頭病院協力施設責任者、外部有識者をもって構成する。

【病院群所属管理型病院・協力型病院・協力施設との会議】

毎月 1 回群星沖縄臨床研修センターにて、群星沖縄プロジェクトに所属する管理型病院および協力型病院の研修委員長による合同会議を実施。

年 1 回琉球大学病院にて、RyuMIC プロジェクトに所属する管理型病院、協力型病院、協力施設の研修委員長(もしくは研修実施責任者)による合同会議を実施。

平成 15 年 7 月 作成
平成 15 年 12 月 改訂
平成 16 年 3 月 改訂
平成 16 年 4 月 改訂
平成 17 年 4 月 改訂
平成 18 年 4 月 改訂
平成 19 年 4 月 改訂
平成 20 年 4 月 改訂
平成 21 年 6 月 改訂
平成 22 年 8 月 改訂
平成 23 年 7 月 改訂
平成 24 年 5 月 改訂
平成 25 年 6 月 改訂
平成 26 年 6 月 改訂
平成 27 年 7 月 改訂
平成 28 年 7 月 改訂
平成 30 年 4 月 改訂
平成 30 年 7 月 改訂
平成 31 年 4 月 改訂
令和 2 年 4 月 改訂
令和 3 年 4 月 改訂
令和 4 年 4 月 改訂
令和 5 年 4 月 改訂